

**2025 年日本国際博覧会の交通アクセス向上につながる
淀川左岸線（2期）の早期整備にかかる要望**

令和2年1月

大 阪 市

2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）は、2020年東京オリンピック・パラリンピック後の日本の成長をけん引する重要な国家プロジェクトであり、経済波及効果も約2兆円と試算される国際的なビックイベントです。万博の成功のためには、開催期間中に想定される2,820万人の来場者に対する円滑な交通アクセスを確保することが不可欠です。

その中で、大阪都市再生環状道路に位置付けられている淀川左岸線（2期）は、現在、本市が2026年度末の完成をめざして事業を進めておりますが、万博会場となる夢洲へのアクセスルートとしても非常に重要な路線であり、関西経済連合会をはじめとした経済界や2025年日本国際博覧会協会から整備前倒しの強い要望を受けております。

淀川左岸線（2期）事業の工事を前倒し、早期整備を図ることにより、万博開催時に新大阪駅などから万博会場へ向かうシャトルバスなどに限定して通行させることで交通アクセスの充実が可能となります。

本市におきましては、淀川左岸線（2期）事業の工事前倒し、早期整備に向けて全力で取り組んでまいりますが、万博までの短期間に多額の事業費が必要となりますので、財源確保の観点から国の格段の支援が必要不可欠であると考えております。

国におかれましては、万博の成功に寄与する淀川左岸線（2期）事業に対し、工事前倒しのために必要な今年度（令和元年度）補正予算の配分について格別のご配慮を賜りますよう強く要望いたします。

併せて、早期整備に向けて事業を着実に推進できるよう特別に予算を措置していただき、来年度（令和2年度）からの計画的、集中的な財政支援につきましても格別のご配慮を賜りますよう強く要望いたします。

令和2年1月21日

大阪市長 松井一郎